奄美群島MAP

奄美を代表する植物

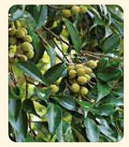
オキナワウラジロガシ

分布は奄美大島～西表島山地の適潤で肥沃な立地を好む常緑高木。

ガジュマル

分布は屋久島・種子島以南。海岸～低地の陽地によく孤立木として生える常緑高木。枝や幹からは多数の気根を垂らし、やがてその一部が地面について太い支柱根になります。

イタジイ（オキナワジイ）



分布は本州（宮城県・山形県以西）・小笠原・四国・九州以南。海岸崖地～やや内陸部の尾根筋などに生える常緑低木。樹皮や木材はタンニンを多く含み、大島紬の染料に用いられるほか、街路樹や庭園樹としても多用されています。

シャリンバイ

分布は奄美大島以南の琉球列島固有。低地～山地まで広く生育する常緑高木。

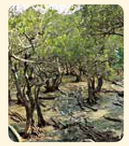
イジュ

分布は奄美大島～与那国島固有。山地の二次林内や林縁に生える常緑高木。木材は耐白蟻性が強いので、建築用材として昔から重宝され、穀物を収納する高倉の柱は主としてイジュの木材を用いました。

アマミセイシカ

分布は奄美大島固有。山地の渓流沿いに生える常緑小高木で、高さ2～5mに達する。花は筒状鐘形、淡桃紫色で上側内面に紅紫色の斑点があります。

メヒルギ



分布は薩摩半島南部（喜入町・大浦町）・種子島・屋久島以南。マングローブの最前線に生える常緑小高木で、高さ4～7mに達します。樹皮はタンニンを含み、かつては大島紬の染料として使用しました。

ソテツ

分布は九州（宮崎県）以南。海岸崖地に生える雌雄異株の常緑低木。種子は薬用あるいは食用になります。

奄美にある巨木

巨木1 大和浜のオキナワウラジロガシ

場所：大和村大和浜
樹種：オキナワウラジロガシ
樹齢：250年
樹高：15m
幹回り：3.8m

巨木3 金作原のオキナワウラジロガシ

場所：奄美市金作原国有林
樹種：オキナワウラジロガシ
樹齢：150年
樹高：22m
幹回り：3.4m

巨木2 国頭小学校のガジュマル

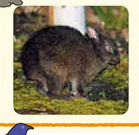
場所：和泊町国頭小学校内
樹種：ガジュマル
樹齢：120年
樹高：9m
幹回り：8m

巨木4 志戸桶のハスノハギリ

場所：喜界町志戸桶
樹種：ハスノハギリ
樹齢：200～250年（推定）
樹高：18m
幹回り：2.7m

奄美を代表する動物

アマミノクロウサギ



絶滅危惧種で、奄美大島及び徳之島の固有種。高齢級林あるいはそれに隣接した餌量の多い場所に生息。樹洞・岩穴の他、大木の根元などに、休息・産仔用の穴を掘ります。

アマミヤマシギ

全体は茶色で頭部の黒い横斑と特徴のある太ったシギです。全長約40cmほど。日本の固有種で、分布域は奄美諸島と沖縄諸島のみであり、繁殖が確認されているのは奄美諸島のみです。

ルリカケス

奄美大島、加計呂麻島、請島の固有種で国の天然記念物に指定。鹿児島県の県鳥でもあり、綺麗な瑠璃色とギャーギャーとわりとうるさめの鳴き声が特徴。

アマミイシカワガエル

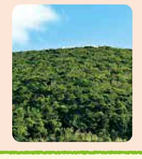
奄美大島の渓流付近に生息する、胴体部分の長さが9～12cmの大型のカエル。緑色の地に金色の斑紋が全身にあって、日本で一番美しいカエルと言われています。

自然遺産登録について

奄美群島の特徴ある森林等

クイズ 徳之島でアマミノクロウサギのすみかになっている森林はどーこだ？

❶ 湯湾岳の森林

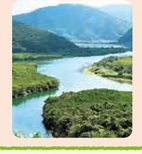


湯湾岳（標高694m）は大和村と宇検村境にある奄美諸島で最も高い山で、アマミテンナンショウやイタジイなどの天然林が分布し、アマミヒイラギやアマミフユイチゴなど希少な植物の宝庫、アマミノクロウサギなど貴重な動物のすみかになっています。

❷ 金作原の森林

奄美市の金作原国有林にあり、ほぼ原生林の姿を保っています。イタジイ、オキナワウラジロガシなどがうっそうと茂り、また、恐竜の時代を思わせる大きなヒカゲヘゴが自生しています。野鳥をはじめ貴重な野生動物の生息環境としても重要です。

❸ 住用川のマングローブ



奄美市住用町の住用川と役勝川が合流する泥湿地帯は県内で最も広大なマングローブとなっています。林内にはメヒルギ、オヒルギ、サキシマスオウノキなどが生育し、マングローブの発達過程や生体の観察の場として貴重です。

❹ 用のアダン群落

奄美大島の北部にある笠利町にあり、用集落北部の砂丘地に樹高4m位に生長したアダンが幅30m、長さ1kmにわたって群落を形成しています。樹高は3～5mになりますが、幹から多数の太い支柱根を出し、まるでタコの足のように地面につっ立っています。

❺ 長雲峠のイタジイ林

奄美大島の北部にある龍郷町にある長雲峠は、丘陵状地形となっており、最高地点は海抜高が290mを越しています。長雲峠から北へのびる稜線沿いにイタジイ林が残存しています。樹林の一部は森林公園として利用されています。

❻ 安木屋場のソテツ群落

奄美大島の北部にある龍郷町にあり、後背急斜面は猫の額のような狭い段々畑として利用され、各段の縁に植えられたソテツ林となっています。2mを越すソテツも林立しています。ソテツの果実には多量のでんぷんが含まれているため、食料に供してきました。

❼ 根瀬部のタイワンヤマツツジ群落

奄美大島の中部にあるタイワンヤマツツジ群落で、奄美市指定文化財でタイワンヤマツツジの自生北限帯の群生地として貴重です。トウヤマツツジとも呼ばれ、絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

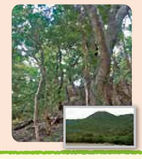
©平城達哉

❽ 諸鈍のデイゴ並木

奄美大島の南部に位置する加計呂麻島の諸鈍長浜にあり、海沿いに続く並木で、樹齢300年以上という巨木群です。毎年5月～6月頃に真っ赤な花を開花しますが、花の時期はたった1週間という短さです。国重要無形民俗文化財に指定されています。

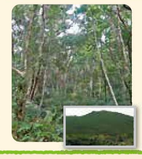
©瀬戸内町役場

❾ 天城岳の森林



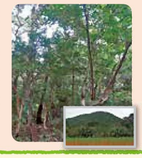
徳之島の北部に位置する天城岳（標高533m）は急峻で谷間や山麓にはオキナワウラジロガシ、中腹にはイタジイ、オキナワウラジロガシ、フカノキなどが分布しています。アマミノクロウサギなど貴重な動物のすみかになっています。

❿ 井之川岳の森林



徳之島南部の井之川岳（標高645m）は徳之島で最も高い山で、中腹以上は自然植生がよく残され、フカノキ、ミミズバイ、奄美固有のアマミフユイチゴなどが生育しています。イタジイが極めて少ないのが特徴です。

⓫ 丹発山の森林



徳之島のほぼ中央で井之川岳の西南に位置する丹発山（標高444m）は、イタジイやオキナワウラジロガシなどを主とする常緑広葉樹の原生林によって覆われています。徳之島で最も自然度の高い森林地帯の1つです。

⓬ 犬田布（明眼）の森林

徳之島の西に位置する犬田布の明眼神社 両 辺林は昔の首長の館跡や風葬の跡などの史跡も含み、古くから伐採されずに保存された樹林です。隆起サンゴ礁に発達する高木林群落の構成種や純亜熱帯要素を含む群落として貴重です。

⓭ 義名山の森林

徳之島南部に位置する義名山は水源涵養林として保護されてきたため、自然 植 生の山林が残存しています。隆起サンゴ礁地帯であるので亜熱帯地帯の石灰岩地特有の高木林群落の典型です。高木層はガジュマル、アコク、タブノキなどの優占度が高いです。

⓮ 小野津海岸の隆起サンゴ礁 植 生

喜界島北端にある海岸に裾礁が巾広く発達しており、隆起サンゴ礁 植 生が発達しています。主なものにはイソフサギ群落やイソマツ群落が発達しています。内陸にいくにつれて、ハマオモト、ハナカモノハシ、ハマグルマなど植物の種類も多くなります。

⓯ 大山の森林

沖永良部島の南部に位置する大山（標高240m）は主にイタジイ林で、植生学的にはアオバナハイノキ－イタジイ群集です。山頂帯は航空自衛隊の施設がありますが、それを除く山頂部一帯は貴重な植物の分布を含む自然 植 生として貴重です。

⓰ 大金久海岸の防風林

与論島東部の百合ケ浜を臨める一帯は砂丘の発達する海岸となっています。砂 丘 地にはクロイワザサやグンバイヒルガオなどが生育し、その後方にはクサトベラ－モンパノ群落などに続いてアダン群落が発達しています。

クイズのこたえ：❾天城岳（あまぎだけ）の森林（しんりん）